



KAKUDAI

2ハンドル 混合栓

台付タイプ

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

このたびは、2ハンドル混合栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

施工の前に…。

- 温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。
- 元止式湯沸器には使用しないでください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

使用圧力条件について…。

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。
やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- * 電気温水器と組合わせる場合は、特に注意してください。

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

△ 注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

△ 気をつけていただきたい「注意」を表します。

○ 指定した場所に触れないでください。

× してはいけない「禁止」を表します。

! 必ず実行していただき「強制」を表します。

施工上のご注意

△ 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。 ●給湯温度は85°C以上で使用しないでください。85°Cより高温で使用されると、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。 ●製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。
△ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯を使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。 ●配管内のゴミや砂などは完全に洗い流してください。 ●給湯機からの配管は配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。 ●各部の接続を行う際は、パッキンがついていることやそれらに破損・変形がないか必ず確認してください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。 ●水勢調節および器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。 ●凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に実行してください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。
! 必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●配管内のゴミや砂などは完全に洗い流してください。 ●給湯機からの配管は配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。 ●各部の接続を行う際は、パッキンがついていることやそれらに破損・変形がないか必ず確認してください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。 ●水勢調節および器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。 ●凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に実行してください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

使用上のご注意

△ 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●給湯温度は85°C以上で使用しないでください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60°C程度をおすすめします。 ●シャワーヘッドには60°C以上のお湯を通さないでください(シャワーワンタッチの場合)。シャワーヘッドの変形や破損により、やけどやケガをする恐れがあります。やけどを防止するため、45°C程度以下をおすすめします。 ●シャワーを使用して浴槽に湯をはらないでください(シャワーワンタッチの場合)。シャワーヘッドがこわれたり、逆流の恐れがあります。 ●製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。
△ 注意	<ul style="list-style-type: none"> ●湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分注意してください。 ●小さいお子様だけの使用は避けてください。やけどやケガをする恐れがあります。 ●他所の水栓を同時に使用されると、やけどの恐れがありますので注意してください。同時に使用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
○ 接触禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●水栓本体の左側は給湯側のため高温になっています。金具の表面に直接肌を触れないでください。 ●高温の湯を使用する際は、吐水口(パイプ)に直接肌を触れないでください。吐水口(パイプ)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。
! 必ず実行	<ul style="list-style-type: none"> ●使用する前に、必ず適温であることを確かめてください。高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ●使用する前に吐水口(パイプ)側かシャワー側かを切替ハンドルで確認してください(シャワーワンタッチの場合)。高温の湯を使用する際に間違えると、やけどをする恐れがあります。 ●ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。 ●湯を使用する際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ●湯を使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。 ●凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に実行してください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。 ●可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので補修してください。

施工に必要な工具



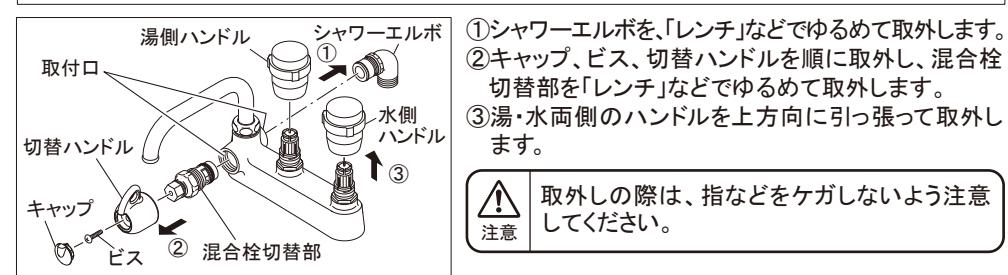
*品名の下に品番のある工具は弊社の製品です。

取付けの前に

●パイプ取付位置の変更方法(152-302の場合)

152-302はパイプの取付位置を本体の右側・左側どちらでも使用できます。購入時はパイプは左側で梱包しておりますので、パイプを右側で使用する場合は、以下の手順で組替えを行ってください。

* 取付後はパイプ位置の左右を変更できませんので、必ず、取付前に以下の作業を行ってください。



- ①シャワーエルボ、「レンチ」などでゆるめて取外します。
- ②キャップ、ビス、切替ハンドルを順に取外し、混合栓切替部を「レンチ」などでゆるめて取外します。
- ③湯・水両側のハンドルを上方向に引っ張って取外します。

注意 取外しの際は、指などをケガしないよう注意してください。

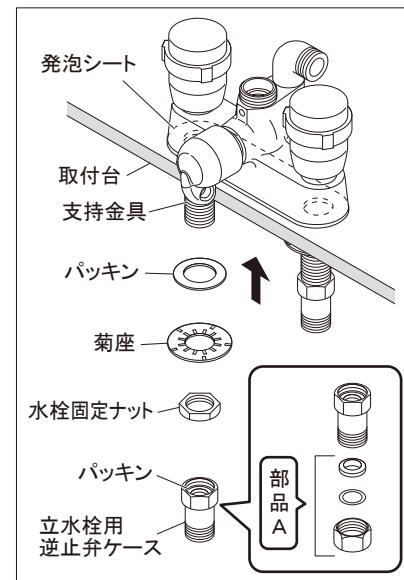
- ④混合栓本体を180°回転させて、①で取外したシャワーエルボを奥側の取付口に「レンチ」などで締付けます。
- ⑤②で取外した混合栓切替部を「レンチ」で締付け、切替ハンドル・ビス・キャップを、手前の取付口に取付けます。
- ⑥湯・水両側のハンドルを組替えでしっかりとはめ込みます。

必ず実行 湯・水両側のハンドルの組替えは必ず行ってください。湯・水の表示が配管と逆になるため、誤った操作によるやけどの恐れがあります。

取付方法

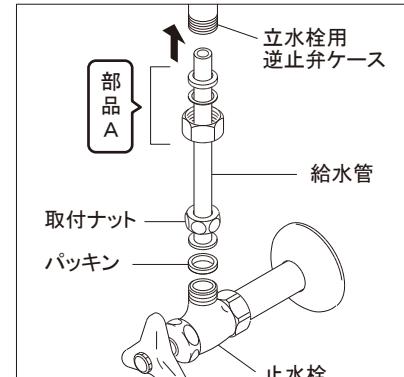
* 数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を閉めて取付作業を行ってください。

1. 混合栓本体を取付けます。



- ①支持金具より水栓固定ナット・菊座・パッキンを取り外し、混合栓本体の底面に発泡シートが貼付けられていることを確認します。
- * 部品が別袋に入っている場合は、この作業は必要ありません。
- ②混合栓本体を取付台に差込みます。
- ③パッキン・菊座の順で支持金具に差込み、水栓固定ナットを「立カラン締め」などで締付け、しっかりと固定します。
- ④部品④を取外した立水栓用逆止弁ケースを支持金具に取付け、「立カラン締め」などで締付けます。
- * 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合はこの手順は必要ありません。「2.給水管を接続します。」へ進んでください。
- * 立水栓用逆止弁ケースが湯用・水用の指定のある機種があります。注意してください。
- * 部品④は止水栓の給水管との接続に使用します。立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種には部品④と同様の部品が同梱されています。

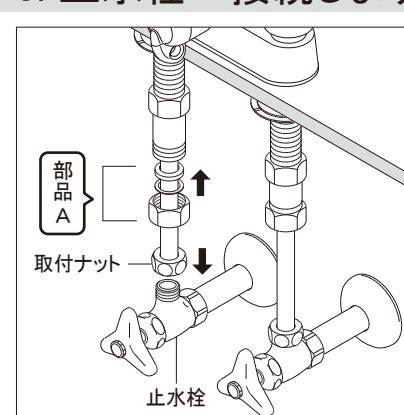
2. 給水管を接続します。



- ①止水栓の給水管に「1.混合栓本体を取付けます。」の④で取外した部品④を図の順番を参考にはめ込み、止水栓から取付ナットを外しておきます。
- * 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種には部品④と同様の部品が同梱されています。
- ②給水管を立水栓用逆止弁ケースの差込口に奥まできっちりと差込みます。
- * 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合は、支持金具に直接給水管を差込んでください。

禁止 本品と止水栓との接続には、フレキパイプなどは絶対に使用しないでください。漏水を起こし、家財などを濡らす恐れがあります。

3. 止水栓へ接続します。



- ①取付ナットを止水栓に「レンチ」などで締付けて、接続します。
- ②部品④を立水栓用逆止弁ケースへスライドさせて「立カラン締め」などで締付け、しっかりと固定します。
- * 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合は、支持金具に直接給水管を固定してください。

裏面へ続く

